

## 今月のトピックス

- 1 A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告が多い状況が続いています。
- 1 夏季に流行する感染症(腸管出血性大腸菌感染症、咽頭結膜熱、手足口病、ヘルパンギーナ等)が増加傾向です。

## 全数把握の対象

## 【6 月期に報告された全数把握疾患】

腸管出血性大腸菌感染症	6 件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1 件
パラチフス	3 件	侵襲性肺炎球菌感染症	5 件
レジオネラ症	7 件	水痘(入院例に限る)	1 件
アメーバ赤痢	4 件	梅毒	4 件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1 件	風しん	1 件
後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)	3 件		

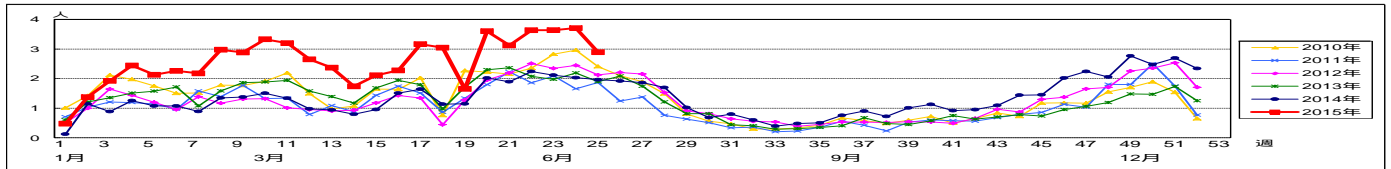
- 1 腸管出血性大腸菌感染症: 6 件(O157VT1VT2 3 件、O26VT1 2 件、O121VT2 1 件)の報告がありました。感染原因が特定されたものではありませんでしたが、家族内感染例がありました。家庭内での 2 次感染予防には手洗いが重要です。さらに、下痢症状がある人は専用のタオルを使うなど、他の人と使うタオルを別にしましょう。トイレは常に清潔に掃除し、ドアノブ・水洗レバー・電気のスイッチなど手の触れるところは、特に念入りにきれいにしましょう。本疾患はこれから夏にかけて例年報告数が増加するため注意が必要です。
- 2 パラチフス: 3 件の報告がありました。すべて海外(ミャンマー(ヤンゴン)およびインド(ムンバイ))での経口感染が推定されています。
- 3 レジオネラ症: 肺炎型 6 件、ポンティアック型 1 件の報告がありました。明確な感染経路等は不明です。
- 4 アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症 3 件、腸管外アメーバ症 1 件の報告がありました。すべて国内での感染で、そのうち 2 件は異性間性的接触、もう 1 件は同性間性的接触、残るもう 1 件は経口感染が推定されています。
- 5 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: 90 歳代女性の報告が 1 件ありました。創傷感染が推定されています。
- 6 後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む): 無症状病原体保有者 2 件、AIDS 1 件の報告がありました。すべて国内での同性間性的接触による感染でした。
- 7 侵襲性インフルエンザ菌感染症: 70 歳代の報告が 1 件ありました。予防接種歴はありませんでした。
- 8 侵襲性肺炎球菌感染症: 5 件(70 歳代 1 件、60 歳代 1 件、40 歳代 1 件、30 歳代 1 件、幼児 1 件)の報告がありました。そのうち幼児では予防接種歴(13 価 4 回)がありましたが、成人例ではすべて予防接種歴が確認できませんでした。
- 9 水痘(入院例に限る): 30 歳代(予防接種歴不明)の臨床診断例の届出が 1 件ありました。
- 10 梅毒: 早期顕症梅毒 期が 3 件、早期顕症梅毒 期が 1 件の報告がありました。すべて国内での性的接触による感染が推定されており、異性間が 2 件、同性間が 1 件、不明 1 件でした。梅毒は全国的に増加しており、厚生労働省では注意喚起のために「梅毒に関する Q&A」をホームページに掲載しています。
- 11 風しん: 30 歳代男性 1 件(ワクチン接種歴不明)の報告がありました。先天性風しん症候群予防のため、妊娠を予定・希望している女性は予防接種を受けましょう。流行の抑制には男性の予防接種も重要です。横浜市では、妊娠を希望されている女性(妊娠中は接種できません)、妊娠を希望されている女性のパートナー(婚姻関係は問いません)、妊婦のパートナー(婚姻関係は問いません)、を対象に風しんの予防接種と抗体検査を実施しています。詳しくは[横浜市保健所ホームページ](#)をご参照ください。

## 定点把握の対象

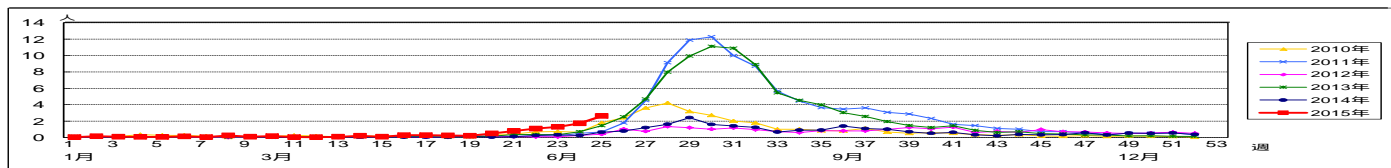
平成 27 年 週 - 月日対照表

第 22 週	5 月 25 日 ~ 31 日
第 23 週	6 月 1 日 ~ 7 日
第 24 週	6 月 8 日 ~ 14 日
第 25 週	6 月 15 日 ~ 21 日

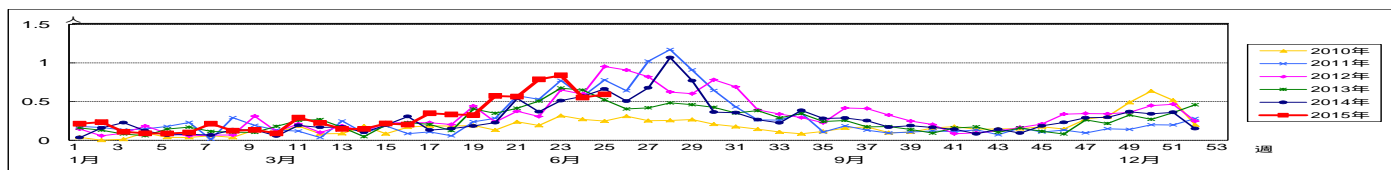
- 1 **A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**: 第 25 週は市全体で定点あたり 2.90 と、前週に比べてやや減少しましたが、今シーズンは例年に比べて報告が多い状態が継続しています。直近 5 週間の集計では、4~7 歳が報告の 57.0% を占めています。区別では都筑区 8.67 など、報告が特に多い区も見られます。A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は合併症として、肺炎、髄膜炎、敗血症などの化膿性疾患、あるいはリウマチ熱、急性糸球体腎炎などの非化膿性疾患を生ずることもあり、注意が必要です。



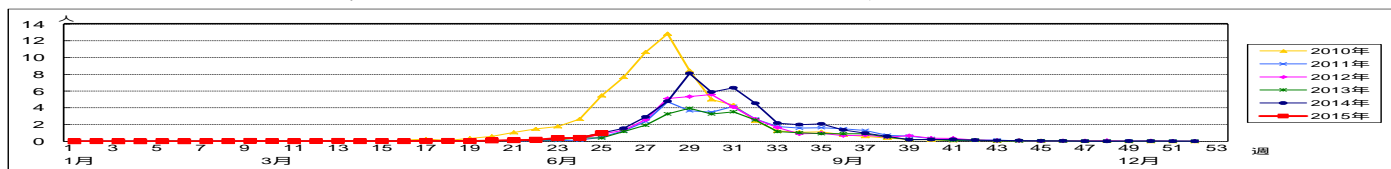
- 2 **手足口病**: 第 25 週は市全体で定点あたり 2.62 と、徐々に報告が増加しています。区別では旭区 6.60、鶴見区 6.00 などと報告が多い区も見られます。全国的には第 24 週で徳島県 13.83、香川県 8.50、鳥取県 6.79 と西日本で報告が多くなっています。例年これからの時期に流行する疾患であり、注意が必要です。



- 3 **咽頭結膜熱**: 第 25 週は市全体で定点あたり 0.59 と、第 23 週 0.84 からは減少しましたが、例年並みの流行期を迎えています。例年本市では 7 月頃まで流行が続くことが多いので、もうしばらく注意が必要です。プールを介した場合の感染経路は、汚染した水から結膜への直接侵入と考えられています。また、プールでのアウトブレイクの調査結果からは、タオルを共用したことが感染のリスクを高めたとの報告もあります。それ以外では通常飛沫感染、あるいは手指を介した接触感染であり、結膜あるいは上気道からの感染です。



- 4 **ヘルパンギーナ**: 第 25 週は市全体で定点あたり 0.95 と、やや増加傾向です。現在のところ、例年と同様の増加傾向を示しています。これからのさらなる増加が予想されるため、注意が必要です



- 5 **性感染症**: 5 月は、性器クラミジア感染症は男性が 19 件、女性が 14 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 10 件、女性が 15 件です。尖圭コンジローマは男性 4 件、女性が 3 件でした。淋菌感染症は男性が 16 件、女性が 0 件でした。
- 6 **基幹定点週報**: マイコプラズマ肺炎は第 22 週 0.75、第 23 週 0.25、第 24 週 1.25、第 25 週 0.00 となっています。感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)は、第 22 週 0.25、第 23 週 0.25、第 24 週 0.25、第 25 週 0.00 となっています。無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎、細菌性髄膜炎の報告はありませんでした。
- 7 **基幹定点月報**: 5 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 12 件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 1 件の報告がありました。薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。  
 横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>